
5

章

各教科等の授業

高等学校には様々な教科があり、その教科ごとに、生徒に身に付けさせたい力が違います。

5章では、各教科等でいま求められている授業のポイントを紹介し、理解を深めていきます。

1 国語

☆言葉による見方・考え方

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編』では、「生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着眼して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること」と説明されています。

例えば「you」と同じ意味を表す語を、日ごろ何通り使い分けていますか。同じ相手でも、場所や状況、その時の心情によって使い分けているのではないのでしょうか。

何気なく使っている言葉の表現意図や表現効果、文化的背景について生徒が「考え」「気付く」ような授業を目指しましょう。

☆「古典を学ぶ意義」

今を生きる生徒達がなぜ古典教材を学ぶのでしょうか。その意義について、まず教員自身が見解を確立することが必要です。そのうえで生徒自身が古典を学ぶ意義について「考え」「気付く」ことができるように、

- ・先人のものの見方・考え方に触れ、生徒自身の経験や考えと比較しながら考えを広げたり、深めたりする。

- ・原文を題材とした文章（解説や評論等）を副教材として活用する。

といった活動を効果的に取り入れた授業づくりをすることが大切です。

言葉への自覚を高める授業

言葉は、人が人として暮らすための大切な基盤の一つです。「言語に関する能力」を高めることは、あらゆる意味で人生を豊かにすることにつながります。

学校教育の中で「言語に関する能力」の育成を目指し、直接かつ計画的に指導を行うのは国語科です。その役割と責任は極めて大きいと言えるでしょう。国語科の授業では「言葉」にこだわり、生徒が言葉への自覚を高められるようにすることが大切です。

教材「を」ではなく、教材「で」学ぶ

指導事項（身に付けさせたい資質・能力）が異なれば、同じ教材であっても授業の展開は変わります。同じ『羅生門』でも、下人の心情変化を学びの主軸に据えるなら、場面ごとに丁寧に読み進める活動が効果的です。原典である『今昔物語集』との比較は、作者の執筆意図の探究につながります。目標に合った最適な学習活動はどのようなものか考え、計画することが授業づくりの第一歩です。

→ 2章-7

一つの単元で学ぶ領域を一つに絞る

国語の授業で身に付けさせたい「思考力、判断力、表現力等」は「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の三つの領域に分けられます。これらを偏りなく身に付けさせようと、これまでは一つの単元であらゆる学習活動を取り入れる授業が見られました。しかし、それでは焦点がぼやけ、生徒には学ぶべきことが伝わりにくくなります。

そのため、国語の授業づくりにおいては「一単元一領域」の原則に従って指導計画を立てることが重要です。どの領域の学習をどのような活動によって育成するか、ねらいを定めて指導します。

なお、このとき注意すべきことは、

領域と言語活動の内容は必ずしも一致しない

ということです。教材の内容理解を深めるための話し合いであれば「読むこと」、説得力ある伝え方を身に付けるための話し合いであれば「話すこと・聞くこと」の領域の資質・能力を育成する言語活動となります。「この言語活動はこの領域の力を身に付けさせる活動として適切か」を常に自問しながら言語活動を設定しましょう。

各科目のねらいを踏まえて指導計画を立てる

より良い学びを実現するために、平成30年度告示の学習指導要領で、国語の科目は資質・能力ベースへと改編が行われました。

授業づくりにおいては、どのような資質・能力を身に付けるためにその科目が設定されているか、各科目の目標と指導内容について教員が理解し、適切な指導計画を立てる必要があります。

【共通必修科目】標準2単位

現代の国語

実社会・実生活に生きて働く国語の能力を育成する科目

言語文化

上代から近現代につながる我が国の言語文化への理解を深める科目

【選択科目】標準4単位

論理国語

多様な文章等を多角的・多面的に理解し、創造的に思考して自分の考えを形成し、論理的に表現する能力を育成する科目

文学国語

小説、随筆、詩歌、脚本等に描かれた人物の心情や情景、表現の仕方等を読み味わい評価するとともに、それらの創作に関わる能力を育成する科目

国語表現

表現の特徴や効果を理解した上で、自分の思いや考えをまとめ、適切かつ効果的に表現して他者と伝え合う能力を育成する科目

古典探究

古典を主体的に読み深めることを通して、自分と自分を取り巻く社会にとっての古典の意義や価値について探究する科目

<例>言語文化「読むこと」の学習活動例

言語文化の例として、『羅生門』を教材に指導事項「B読むこと(1)ウ」を身に付けさせるための学習活動を紹介します。

言語文化 「B読むこと(1)ウ」

文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。

【学習活動】

本文の構成や展開、場面設定に留意しながら紙芝居にする。

作品をモチーフにして「リライトする」活動です。紙芝居は、どこで場면을切り分けるかを考える活動が中心となりますので、構成や展開を学ぶことに効果を上げます。

※注意事項：ここで紹介した例は「書く」活動ですが、「読む」力の育成をねらいとした活動ですので、この場合の学習評価は、「書くこと」ではなく「読むこと」で実施します。

☆科目構成の見直し

特に共通必修科目である「現代の国語」及び「言語文化」は、旧課程における「国語総合」を単純に分割したものではありません。平成28年12月の中央教育審議会答申で示された、高等学校国語教育の次のような課題を受けて改編された、「全く新しい」科目です。

■現代の国語

「話し合いや論述などの『話すこと・聞くこと』、『書くこと』の領域の学習が十分に行われていない」

■言語文化

「古典の学習について、日本人として大切にすべき言語文化を積極的に享受して社会や自分との関わりの中でそれらを生かしていくという観点が弱く、学習意欲が高まらない」

これらの課題を解決するための授業実践こそが、国語科教員の責務です。この新しい科目を各学校の実態に合わせどのように定着させるか。国語科教員全員の意識改革が求められています。

2 地理歴史・公民

「地理歴史・公民」の学習とは

「地歴・公民の学習とは暗記である。」と思ったことはありませんか。学習指導要領には、生徒に身に付けさせるべき「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」が、単元ごとに明記されています。生徒の学びが断片的な知識の暗記に偏ることなく、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現するには、授業で地理歴史科・公民科における「社会的な見方・考え方」を働かせる問いを、単元を見通して立てる必要があります。

教科書を頼ろう！

教材（教科書、図説、史料集等）には、とても多くの内容が記載されています。すべての内容を網羅的に授業で扱おうとすると、時間がいくらあっても足りません。

地理歴史・公民の学習における基礎・基本とは何か。どのように内容を精選すべきか。これらを考える上で参考になるのが教科書です。他の教材と異なり文部科学省の検定を受けた教科書は、多くの人々の経験や知恵が詰まっている教材と言えます。

現行の教科書には、単元を貫く問い（単元を通して考える問い、本時の問いを積み重ねて考える問いと言える）、本時の問い（毎時間の授業を通して考える問い）に該当する問いが記載されているため、内容の精選にも役立つはずです。

適切な問いを立てよう！

適切な問いを立てるためには、まず単元ごとに教科書や学習指導要領解説の問いの例を確認し、学習内容を整理する必要があります。次に『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 地理歴史編』、『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 公民編』に掲載されている問いの例を一部紹介します。

地理総合、歴史総合、公共等における問いの例

- ・「人間と自然環境との相互依存関係」について、「そこでの生活は、周囲の自然環境からどのような影響を受けているか」
- ・「当時の人々はなぜそのような選択をしたのだろうか（現代とはどのような異なる時代背景があったと考えられるだろうか）」（【歴史と現在】と共有される問い）
- ・第一次世界大戦の展開について「日本やアメリカ合衆国、中国政府、さらに英領インドなどは、何を期待して戦争に参加したのだろうか」
- ・司法参加の意義について「なぜ予め犯罪と刑罰を法律で定めておく必要があるのか」

こうした問いを基に学習内容を整理したうえで、生徒の実態を踏まえた問いを立て、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現していきましょう。

地理歴史・公民の授業づくりのポイントについて

地理に関する科目

共通必修科目である「地理総合」について、三つの大項目（以下のA～C）の中から、それぞれ特徴的な内容を紹介します。

A 地図や地理情報システムで捉える現代世界

＜地図や地理情報システムと現代世界＞ 地理情報システム（GIS）の活用を通して、地理的技能の習得及び地理学習への意欲向上をねらいます。まずは教員がGISに触れ、理解を深めることが大切です。GISは、地理院地図や地図太郎、RESAS等が挙げられます。主題図の作成等、具体的な活動を伴う学習展開が考えられます。



【地理院地図の使い方】

B 国際理解と国際協力

＜地球的課題と国際協力＞ この項目では、「持続可能な開発目標（SDGs）」について理解を深めることが大切です。各国の取組を踏まえ、生徒一人ひとりが実施できることを追究する等の学習展開が考えられます。



【SDGs CLUB】

C 持続可能な地域づくりと私たち

＜自然環境と防災＞ 災害には、地域性があります。地域性や生徒の生活圏を踏まえた上で、災害の傾向や防災の取組を追究する等の学習展開が考えられます。

歴史に関する科目

歴史の授業は、「何が起ったか」を学習することが多かったことと思います。しかし、「なぜ起ったか」を学ぶことも重要ではないでしょうか。授業づくりで大切にしたいことは、「なぜ」を意識した良質な問いの設定です。問いには、調べれば分かる「知識を問う問い」と、知識と知識の関係を問うなどのより高次の「思考を要する問い」があります。前者は一斉講義や個別学習で生徒が答えを出せますが、後者の問いに答えられる力を生徒が身に付けるためには、授業形態やツールの工夫が必要です。資料を読み取って自分の考えを言語化したり、グループで意見交換・発表したり、ICT機器を用いて生徒一人ひとりの考えを全員で共有したりと、様々な工夫が考えられます。

「歴史総合」では、生徒が学習した知識を活用して思考を深める授業、生徒が主体的に取り組む授業が求められています。生徒がいつ何をどう学んだらよいか、年間指導計画で位置付け、問いを立てて単元を構想しましょう。担当間での相談や共有も必須です。

「なぜ」を大切に、授業づくりに取り組みましょう。

公民に関する科目

公民の授業では、より多くの生徒が当事者意識を持つことができる社会問題を適切に選び、授業づくりをしていくことが大切です。そのためには、世の中の動きを常に意識するとともに、目の前の生徒が何に興味をもっているのか、何を知っているのかなど、生徒の実態を把握することに努めましょう。

共通必修科目である「公共」では、「人間と社会のあり方についての見方・考え方」を働かせながら、考察や追究を行うことがさらに重要となります。大項目AからCへと学習を進める中で、教師が立てた問いを考察・追究する学習活動から、生徒自身が課題を見だし、協働しながら探究する活動を展開していくことが求められています。

また、選挙権年齢が18歳に引き下げられたのに続き、成年年齢が18歳になりました。政治参加教育・消費者教育・金融教育・法教育などの重要性はますます高くなっています。

公民科の授業は、人間と社会のあり方を体系的に学ぶ大事な機会となります。教員も人間と社会をみるバランス感覚を養いながら、使命感をもって授業づくりに取り組みましょう。

3 数学

☆数学を通して、生徒にどのような力を身に付けさせるのか

数学の学習では、「数学的な見方・考え方」を働かせ、「数学的活動」を通して「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を育成することが重要です。

育てたい生徒像を具体的にイメージして、その姿が実現されるような授業づくりを行いましょ。

☆数学的な見方・考え方

数学の学習では、「数学的数学的に考える資質・能力を支え、方向付けるものであり、数学の学習が創造的に行われるために欠かせないものです。「事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的、体系的に考えること」として整理することができます。

高等学校数学教育の意義

数学は、抽象的かつ体系的であるという特長により、自然科学のみならず、社会科学や人文科学においても重要な役割を果たしています。高等学校で数学を学ぶことは、数学を活用して社会をよりよく生きる知恵を得ることにつながるのです。

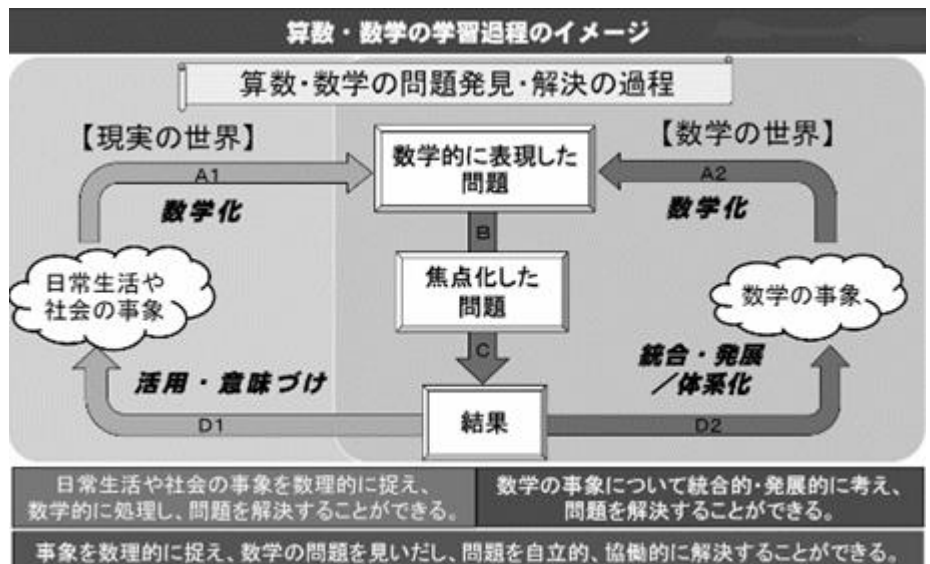
数学の学習は、単に知識や技能などの内容の習得にとどめるのではなく、数学的活動を重視して創造性の基礎を養い、すべての高校生の人間形成に資することを目標としています。

数学的活動とは

数学的活動とは、「事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行すること」と捉えることができます。

数学的活動には、主に二つの過程が考えられます。

一つは、「日常生活や社会の事象などを数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決し、解決過程を振り返り得られた結果の意味を考察する過程」です。もう一つは、「数学の事象から問題を見だし、数学的な推論などによって問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的、体系的に考察する過程」です。



数学的活動の充実

日常生活に関連した事象を扱うことで、生徒が習得した知識・技能を活用できるような事例を取り上げます。

事例 1 予想する活動

問題 正方形の床に正方形のタイルを敷きつめたところ、使ったタイルの枚数は3の倍数でした。このとき、床の一边のタイルの枚数は、何の倍数になるか予想してみましょう。

【目標】

事象を命題として表現し、論理的に考察することで、命題を証明する。

生徒が問題を「整数 n の平方が3の倍数ならば、 n は3の倍数であることを証明せよ。」という数学的に表現された問題として捉え直し、予想するような学習活動をねらいとしています。予想することで、興味がかき立てられ、理由を考えようとします。なぜ?という気持ちから課題意識が高まり、それが主体的な活動につながります。

〈授業づくりの工夫〉

- ・予想をもとに、生徒に「この予想は証明できるだろうか?」「証明するにはどうすればよいのか?」といった新たな問題の発見を促すことが大切です。このように問題を発展させることで、深い学びへとつながります。
- ・「生徒の解答を共有し、どのように考えて解いたかを説明させたり、どのようにすればよりよい表現になるかを考えさせたりする活動」や「生徒の誤りや疑問を積極的に取り上げ、それを解決することを通して理解を深める活動」は、思考力や表現力を高め、学びを深める指導として有効です。

事例 2 協働的な学び

問題 文化祭でお好み焼きの模擬店を開き、利益を寄付することになりました。利益が最大となるように販売する値段を決定したいと思います。どのように値段を決定すればよいか考えてみましょう。

【目標】

日常生活の事象を数学的に捉えることのよさを認識し、二次関数のグラフを用いて問題を解決しようとする。

身の周りの課題について、条件（お好み焼きの値段と販売個数の関係）を設定しながら考察し解決する過程を通して、二次関数を活用することの有用性を認識することができます。

〈授業づくりの工夫〉

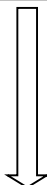
- ・次の問題のように、解決の過程を振り返ってよりよい解決の方法を考えたり、さらに課題を発展させたりすることは、内容の理解を深め、思考力や表現力を高めることにつながります。

追加問題 お好み焼きの値段と販売個数の関係を考える上で、どのような条件を追加するとより現実的になるでしょうか。グループで考えてみましょう。
(解答例) 材料費や光熱費といった必要経費を考慮する など。

個人で考える活動



協働的な学び
(グループ活動等)



振り返り

思考力を高めるには、一方的に説明を聞くだけでなく、自ら考える活動が大切です。まずは、個人の考えや意見を記述します。思考したことを整理しまとめる活動は表現力を高めるためにも効果的です。また、考えたことを記録しておくことで、生徒が後で「ここまで考えることができた」と振り返るときにも役立ちます。

思考力と表現力には密接な関係があります。自分の考えを他の人に分かりやすく説明したり、他の人の考えを評価したりする活動は、自分の考えを深めます。また、他の人と考えを伝え合う活動は、新しい考えに出会う機会となり、自らの考えにいかすことで、自分の考えや集団の考えを発展させます。

多様な解法が考えられる問題を与え、「別の解法はないか?」「条件を変えてみたらどうか?」といった発問を、最初は教員が意図的に行うことが大切です。生徒自身が推論する活動を行い、自らの学びを振り返って次の課題を発見するようになれば、「学びに向かう力」が育まれたといえます。

※ 推論する活動・・・帰納的・類推的・演繹的に推論しながら問題を解く活動を取り入れて、数学的な考え方を高めます。

自己の成長を実感させるためには、数学的活動を振り返らせることが大切です。どの考えが役立ち、協働的な学びを通して自分の数学的な見方や考え方がどのように変わってきたのか、自己評価をさせることで自分の理解度が明確になり、学習の定着にもつながります。

4 理科

☆理数探究

各学科に共通する教科「理数」では、探究すること（プロセス）を重視しており、失敗してもその原因について考えたり、再チャレンジしたりする資質・能力の育成を重視しています。『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 理数編』（39～44ページ）の「探究的な学習の指導のポイント」は理科の授業や総合的な探究の時間の指導にも生かせる内容となっています。

☆小学校・中学校理科と高等学校理科との対応

小学校・中学校理科と高等学校理科の内容の対応は、「エネルギー」と「物理」「粒子」と「化学」「生命」と「生物」「地球」と「地学」となっています。

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 理科編 理数編』（16～19ページ）に記載されている、内容の構成表を参考にしてください。

「探究の過程」を意識する

科学は、自然の事物・現象に対する気付きから仮説を設定し、観察・実験により仮説の妥当性を検証することを繰り返して体系化されてきた学問です。授業の学習過程でも、課題の把握（発見）、課題の探究（追究）、課題の解決という「探究の過程」を意識した学習活動を行い、生徒が主体的に全体像の追求を遂行できるようになることを目指しましょう。その際、授業においては、次の例のように、「探究の過程」の一部を取り扱うことも可能です。

例1) プラスチックの種類を決定するための実験を計画する

「科学と人間生活」において、プラスチックの種類についての知識を学んだあとで、種類の分からないプラスチック片について、どのような実験を行えば種類が特定できるかを考える。

例2) DNAが遺伝子の本体であることを実験結果から説明する

「生物基礎」において、実験方法とその結果をまとめた資料をもとに、結果を分析・解釈し、他者に説明する。

理科の「見方」

理科における「見方」については、理科を構成する領域ごとに特徴的な視点があります。

領域	特徴的な見方（高等学校）
エネルギー	自然の事物・現象を「見える（可視）～見えない（不可視）レベル」において、主として量的・関係的な視点で捉えるとともに、より包括的・高次的に捉える。
粒子	自然の事物・現象を「物質レベル」において、主として質的・実体的な視点で捉えるとともに、より包括的・高次的に捉える。
生命	生命に関する自然の事物・現象を「分子～細胞～個体～生態系レベル」において、主として多様性と共通性の視点で捉える。
地球	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を「身のまわり（見える）～地球（地球周辺）～宇宙レベル」において、主として時間的・空間的な視点で捉える。

※特徴的な視点は領域固有のものではなく、これら以外にも、定性と定量、全体と部分、構造とはたらきなどもあることに注意する。

授業づくりのワンポイントアドバイス（分野別）

物理、化学、生物、地学、各分野の授業づくりのワンポイントアドバイスは次のとおりです。

物理分野

物理の学習で大切なことは、まず現象を詳しく観察し、よく似た現象はないか、どのような原理・法則が働いているのかを考えさせます。次に現象を単純化したモデルを構成させ、図で表せるようにします。その後で現象を方程式で表し、それを数学的に解きます。

「実際には解かないで解の性質を知る方法があるとき私は方程式の意味を理解する。」（ディラック）

化学分野

物質やその変化の内容を扱うときは生徒にとって身近な例を挙げるなどして日常生活との関連を図るとよいでしょう。その際、単元を貫く問いなどを準備するとより効果的です。理科の観察・実験は、安全に配慮して行ってください。

また、化学実験で扱う器具の操作方法、薬品の取り扱い方については、必ず予備実験を行って確認し、生徒の動きを想定して準備をすることが大切です。日頃から安全への意識を高めるような指導を心掛けましょう。

生物分野

生徒の自然体験は一人ひとり大きく異なります。生徒が身近な生物や事象と学習内容のつながりを実感できるよう、授業では季節や地域の実態などに応じて、実物、映像、写真等を用いることを心掛けましょう。

また、用語の記憶を重視する授業展開でなく、生徒自身が様々な課題に対して思考する場面をつくることを心掛けましょう。

地学分野

地学で扱う題材は、時間経過や空間の広がり、我々の人生から比べると雄大なものが多いです。地学的な事象を実感するためには、現実に起きている気象、地震・火山・天体現象を扱ったり、コンピューターシミュレーション等を行うとよいでしょう。

また、岩石などは実物に触れるようにすると、理解が深まります。ただし、屋外での実習を行う前には、現場の安全性を十分確認しましょう。

☆理科を学ぶことの意義

令和4年に実施した全国学力・学習状況調査（中学3年生対象）において、「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いに肯定的な回答が61.8%、「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか」の問いに肯定的な回答が22.6%という結果になっています。

理科の授業の中において、理科を学ぶことの有用性及び実社会・実生活との関連を意識することが求められています。

朝永 振一郎の言葉

（物理学者。1965年にノーベル物理学賞を受賞。）

「ふしぎだと思うこと
これが科学の芽です
よく観察してたしかめ
そして考えること
これが科学の茎です
そうして最後になぞが
とける
これが科学の花です」

トーマス・エジソンの言葉

「私は実験において失敗など一度たりともしていない。

電球は光らないという発見を、今までに2万回してきたのだ。」



5 保健体育

☆保健体育科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

※総合教育センター体育指導センターでは、授業づくりの参考となる各校種のハンドブックを作成しました。次の二次元コードよりアクセスできますので、単元の構想や授業づくりの参考として御一読ください。

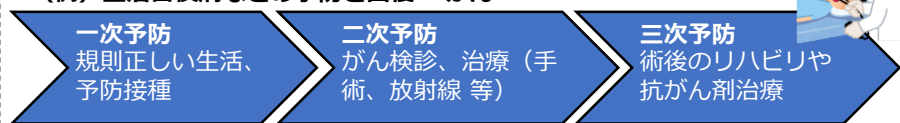


保健のポイント

「生涯を通じて自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力の育成」

知識及び技能は、一次予防だけでなく、二次予防（早期発見・早期治療）・三次予防（リハビリ・社会復帰）を含めた学習内容の確実な定着を図ることが大切です。

（例）生活習慣病などの予防と回復 ～がん～



技能は、「安全な社会生活」における「応急手当」に、「心肺蘇生法などの応急手当を適切に行うこと」が内容として示されています。日常的な応急手当とAEDなどを用いた心肺蘇生法の必要性及び方法や手段について、実習を通して理解し、できるようにすることが求められます。

思考力、判断力、表現力等は、個人及び社会生活における健康・安全に関する内容について科学的に思考・判断し、総合的に捉えるとともに、それらを、筋道立てて他者に表現できるようにすることが大切です。

学びに向かう力、人間性等は、生涯を通じて健康の保持増進や回復を目指す実践力を育成することによって、生徒が、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育むことが大切です。

★思考力、判断力、表現力等の育成を目指した学習指導例

単元名「喫煙、飲酒、薬物乱用と健康」

<ねらい> 喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、我が国のこれまでの取組を個人への働きかけと社会環境への対策の面から分析したり、諸外国と比較したりして、防止策を客観的に評価し改善策を考えること

<発問> 喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、これからの防止対策を考えよう！

学習活動 1 諸外国はどのような対策を講じているか調べてみよう。

⇒ICTを活用して調べ学習をする。

学習活動 2 日本の対策について、根拠を示して評価しよう。

⇒クラウド上で他グループ等と意見交換をする。

学習活動 3 科学的データや諸外国の対策等を参考にしながら、日本の対策を改善し、よりよい方策を考えて発表しよう。

⇒プレゼンテーションソフトを使いポンチ絵を作成し発表する。

⇒クラウド上で他グループ等と意見交換をする。

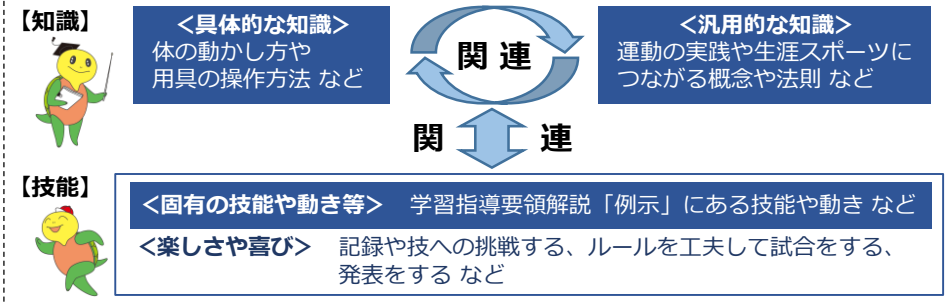


※思考力、判断力、表現力等は、解説の例示を参考にして、生徒が主体的に学べるような、具体的な学習活動等を考えましょう。

体育のポイント 「生涯にわたる豊かなスポーツライフの継続と、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力の育成」

知識は、具体的な知識と汎用的な知識を関連させて理解できるようにするとともに、知識と技能を関連させて学習できるようにすることが大切です。

技能は、運動種目等の固有の技能や動き等を身に付けることがねらいとなりますが、各領域の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを深く味わうことができるようにすることが大切です。



思考力、判断力、表現力等は、自己や仲間の課題を発見し、合理的・計画的に解決したり新たな課題の発見につなげたりすることができるよう思考し判断したことを、言葉や動作などで即座に表したり図や文章及び映像等を用いて筋道を立てて伝えたりすることができるようにすることが大切です。

学びに向かう力、人間性等は、運動における競争や協働の経験を通して、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保し、運動に主体的に取り組み、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養うことが大切です。

- 【学びに向かう力、人間性等】**
- ・愛好的態度…自主的に取り組もうとする、主体的に取り組もうとする
 - ・公正…ルールやマナー、フェアなプレイを大切にしようとする など
 - ・協力・責任…互いに教え合い高め合おうとする、自己の責任を果たそうとする など
 - ・参画・共生…話合いに貢献しようとする、一人一人の違いを大切にしようとする など
 - ・健康・安全…健康・安全を確保する



★生徒の技能の程度に応じてルールを工夫した学習指導例

単元名 球技：ネット型「バレーボール」

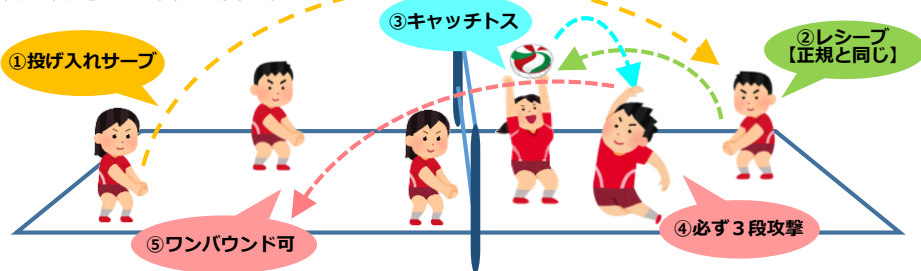
<ねらい> 作戦に応じた技能で、仲間と連携してゲームを展開すること

正規のルールを緩和することで、技能の程度にかかわらず、チーム全員が仲間と連携した動きによって攻防を楽しむことができるようにする。

～ルール緩和の例～

- 人数 (例) 3人対3人など、少ない人数にして活躍する機会を増やす。
- 用具 (例) ソフトバレーボールなど、柔らかく操作しやすいボールを選ぶ。
- コート (例) ネットの高さを低くしたり、コートの広さを狭くしたりするなど、プレイしやすいコートを選ぶ。
- ルール (例) 三回の触球のうち、一回はキャッチをしてもよいこととする。相手コートからの返球は、ワンバウンドしてもよいこととする。攻撃は必ず3段攻撃とする。ブロックはしないこととする。技能の程度にかかわらず、仲間と連携して攻防ができるようにする。

ルールを工夫した試合の例



☆「共生」について

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編』より、新たに「共生」の態度を育むことが加わりました。

共生は、「体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、人には違いがあることに配慮し、よりよい環境づくりや活動につなげようとするに主体的に取り組もうとする意思をもち、一人一人の違いを越えて取り組もうとする意欲を高めること」であると示されています。

そのため、授業は原則として「男女共習」で学習を行うことが求められます。その際、心身ともに発達が著しい時期であることを踏まえ、運動種目によってはペアやグループの編成時に配慮したり、健康・安全に関する指導の充実を図ったりするなど、指導方法の工夫を図ることが大切です。

また、スポーツを楽しむための多様な関わり方という観点から、運動に関する領域だけで「する、みる、支える、知る」といった関わり方を学ぶだけでなく、体育理論と相互に関連させて学習することで、知識の重要性をより一層理解し、生涯にわたってスポーツを楽しむための多様な関わり方を見つけることができるような授業にしましょう。

☆保健体育教師の実践的指導力とは

- (1) 授業設計力
 - ・学習指導要領の理解
 - ・単元計画力 等
 - (2) 授業実践力
 - ・内容的条件
 - ・基礎的条件
 - (3) 授業省察力
 - ・設計への省察
 - ・授業実践への省察
- ※詳細は、『授業づくりハンドブック』をご覧ください！
(p100の二次元コードを参照してください)

6 芸術

☆高等学校芸術科の「見方・考え方」

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術編』より

音楽

音楽的な見方・考え方

感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、芸術としての音楽の文化的・歴史的背景などと関連付けること。

美術・工芸

造形的な見方・考え方

感性や美意識、想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと。

書道

書に関する見方・考え方

感性を働かせ、書を、書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点で捉え、書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの関わりから、意味や価値を見いだすこと。

あなたにとっての芸術とは

好きな（影響を受けた）作家（作曲家、画家、書家等）は誰ですか？

心を揺さぶられた作品（芸術的体験）はどのようなものですか？

生徒にとって芸術科の教員は、最も身近な芸術家であるとともに、味わい方の伝道者でもあります。日常的に、芸術を愛好し芸術文化を尊重している教員の姿から、生徒たちは何かを感じています。

芸術科が大切にしたいこと

高等学校芸術科では、芸術文化に対する理解を深め、愛着を持つとともに、一人ひとりがそれぞれの興味・関心や個性をいかし、感性を高め、芸術と幅広く、かつ、多様な観点から主体的に関わっていくことが重要です。学校を卒業した後も、社会とのつながりの中で芸術を愛好し、生涯にわたり豊かな情操を持ち、芸術文化を尊重する態度の育成を目指していくことが大切です。

「見方・考え方」と「感性」

芸術科における「見方・考え方」の重要な点は、知性と感性を相互に働かせて対象や事象を捉えることです。

知性だけでは捉えられないことを、身体を通して、知性と感性を融合させながら捉えていくこと、客観的事実と感情とを往還させて考えることは、他教科等以上に芸術科が担っている学びです。また、多様性の包容、柔軟な発想や他者との協働、自己表現とともに自己を形成していくことなども含まれており、そこにも、芸術を学ぶ意義や必要性があります。

また、特に重要な「感性」の働きは、感じるという受動的な面だけではありません。感じ取って自己を形成していくこと、新しい意味や価値を創造していくことなども含めて「感性」の働きです。

そして、「感性」は知性と一体化して創造性の根幹をなすものです。芸術科は、生徒たちの創造性を育む上で大切な役割を担っているのです。

生徒には、どのような姿に育ってほしいですか？

ここのフォルテは、歌詞から考えると雄大なイメージが湧いてくるな…。どう歌えば、それが伝わるだろうか。



フレーズを長くとってみようかな。言葉一つひとつに重みをつけても良いかな…。よし、歌いながら試してみよう。

美術科の授業例 美術Ⅰ「A表現(1)絵画・彫刻」、「B鑑賞」及び〔共通事項〕

〈題材名〉 心の形（石材による抽象彫刻）

〈題材の目標〉 「心の形」というテーマを基に、自己の内面を深く見つめ、主題を生成し、造形的な効果をいかし創造的に表現するとともに、他の生徒の作品から作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わう

導入

学びの見通しをもたせるために、授業の流れを示しましょう。自己の内面を見つめて、主体的に表現活動や鑑賞の創造活動に取り組めるよう、授業の導入や展開を工夫しましょう。

発想や構想の活動 評価の観点【思考力・判断力・表現力】

アイデアスケッチや言葉により、思いや考えを整理させ、**自分が表したい主題を生成**させることが重要です。また、石の特性の理解、単純化や強調など、主題を表現するための構想を練るよう、指導しましょう。

制作の活動 評価の観点【知識・技能】

「心のこもっていない、何を表現したいのか分からない作品」には感動が伴いません。**自分が表したいイメージを具現化**させるために、本当にこの形で良いのかと**主題を追求**させましょう。道具の特性の理解も大切です。

鑑賞の活動 評価の観点【思考力・判断力・表現力/知識】

鑑賞も創造活動です。作品に対して、自分としての意味や価値をつくりだすよう指導しましょう。また、**根拠を持って互いに批評し合う活動**を通して、自他の特性や個性について理解を深めさせるよう配慮しましょう。

導入～鑑賞の活動まで 評価の観点【主体的に学習に取り組む態度】

自分が表したい主題を明確にもち、イメージを具現化することを重視して表現します。また、他者から承認される鑑賞の活動を行うことにより、自己肯定感を高めます。

表現と鑑賞の活動を通して、美しいものやより良いものを求めていこうとする豊かな情操を養います。



芸術科の授業でおさえたいポイント（教材研究、安全指導は必須！）

①芸術科における技能とは

「～が上手」というような単なる技術の巧拙ではなく、意図に基づいて表現するための技能であることに留意する必要があります。

②生徒が表現意図をもつために

主題の設定や作品の鑑賞、作品の様々な背景に触れるなど、題材（書道は単元）計画を工夫することで、「〇〇を△△のように表現したい」という気持ちを引き出すことができます。

③題材（単元）同士を連結させましょう

一つの題材（単元）の学びが独立して閉じてしまうのではなく、一年間を通した学びとなるよう関連付けましょう。そのことによって、学習の質を高めることができます。

④学んだことの意義が実感できるように

演奏発表会や作品の展示、掲示物を作成するなどして、芸術科の見方・考え方が、生活や社会の中で活用できることを体験させましょう。

7 外国語（英語）

☆必要な支援は何か？

言語活動においては、どのような支援があれば課題を遂行できるかなどを考慮し、生徒に必要な配慮を行います。例えば話す速度を落としたり、対話の例として教師がやり取りを見せたり、書く活動の前にアウトラインを書かせたりなど、支援は生徒の学習過程のあらゆる段階で与えることが可能です。

「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」など、科目の段階が上がるにつれて、生徒が自律的な学習者となるよう、支援の程度を調整します。特に初期段階においては、中学校における学習との接続に留意し、高等学校における学習に円滑に移行できるよう、様々な配慮をしましょう。

☆5領域の指導と評価

外国語科の目標は、
聞くこと(L)、
読むこと(R)、
話すこと[やり取り](SI)、
話すこと[発表](SP)、
書くこと(W)

の5領域別に設定されており、評価も5領域別に行います。

L、Rについてはペーパーテストで評価することができますが、SI、SP、Wの評価についてはパフォーマンステストの実施が不可欠です。年間でバランスよく指導と評価ができるよう、効果的な計画作成を心掛けましょう。（右ページ参照）

「言語活動を通して」資質・能力を育成

外国語科の目標は、「外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成すること」つまり、実際に聞いたり、読んだり、話したり、書いたりする活動を通して、資質・能力を育成することが求められています。

では、英語を「聞く／読む」とはどういうことでしょうか。単に英語を日本語に置き換えるだけでは、必ずしも「英語を聞いて／読んでいる」とは言えません。同様に、英語を「話す／書く」とは、単に英語を書いたり英語が口から出てくることではなく、「英語を使ってメッセージを伝える」ことです。言語形式だけに目を向けるのではなく、適切な支援を行った上で、英語を使って内容を理解したりメッセージを伝え合ったりする活動＝言語活動を授業内で効果的に実施するようにしましょう。

コミュニケーションの目的・場面・状況に応じて

外国語における「知識及び技能」の育成は、「外国語の音声や語彙、文法、言語の働きなどの理解を深める」という「知識」の面と、その知識を「実際のコミュニケーションの目的・場面・状況に応じて適切に活用できる」という「技能」の面とで構成されています。また「思考力、判断力、表現力等」の育成のためには、知識・技能を活用して、コミュニケーションの目的・場面・状況に応じて、「概要や要点、意図などを的確に理解」し、「適切に表現したり伝え合ったりする」ことができる力を養う必要があります。

文法など言語材料の指導に当たっては、「コミュニケーションを支えるもの」であることを踏まえ、単に英語を日本語に置き換えさせるなど、文脈から切り離された知識として理解させるのではなく、その知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できるよう指導することが必要です。実際の指導においては、実際のコミュニケーションにおけるその文法事項の活用の必然性に生徒が気付くような指導を行うようにしましょう。

目標（CAN-DO）から始まる授業づくり ～授業の“Backward Design”～

CAN-DOリスト

学年	聞くこと	読むこと	話すこと (発表・やり取り)	書くこと
1年	はっきりと話されれば、まとまった説明を聞いて、その概要やキーワードを聞き取ることができる。	学習を目的に書かれたまとまった英文を読んで、その概要や要点、話の展開を読み取ることができる。	(発表) 知っている単語や簡単な文で、身延なことから始めて、まとまった英語で話すことができる。 (やり取り) 身延なことに限って、簡単な英語でやり取りすることができる。	身延なことから始めて、その概要や要点を、まとまった英文で書くことができる。
2年	はっきりと話されれば、まとまった説明やある程度継続する会話を聞いて、その概要や要点を聞き取ることができる。	学習を目的に書かれたやや長めの英文を読んで、概要や要点、話の展開を読み取ることができる。	(発表) メモを見ながらであれば、身延なことの概要をまとまった英語で話すことができる。 (やり取り) 身延なことに限って、簡単な英語でやり取りすることができる。	身延なことから始めて、自分の意見をまとまった英文で書くことができる。
3年	さまざまな場面で話される英語を聞いて、その概要や要点を聞き取ることができる。	さまざまなジャンルのまとまった英文を読んで、概要や要点、話の展開を読み取ることができる。	(発表) メモを見ながらであれば、身延なことの概要をまとまった英語で発表することができる。 (やり取り) あるテーマについて、簡単な英語で意見を述べることができる。	あるテーマについて、自分の意見をまとまった英文で書くことができる。

※各学校で設定します。必要に応じて見直しましょう。

CAN-DO（学習到達目標）

単元の目標 ※5領域別

5領域に関わる言語活動・教材・テスト

- ・CAN-DOが透けて見えるタスク、練習（目的・ゴールの明確化）
- ・それぞれの技能に寄与する語彙、文法の指導（理解/表現のための言語知識）

「単元の指導と評価の計画」作成の考え方

年間のCAN-DO（学習到達目標）

①単元目標は、「年間のCAN-DOが具現化したもの」になります。つまり、フォーカスしたスキル（一つか二つ）を意識して、5領域別に設定する必要があります。

① 単元目標

聞くことができる (SI)

② ゴールタスク

ALTと話しましょう

③ 単元の授業

スピーキング
ライティング
+やり取り指導

職業選択について意見を書くことができる (SI)

①単元のテキストタイプやジャンル・トピックに応じて、その単元でフォーカスするスキルを決めます。1単元に一つか二つのスキルでもOKですが、年間でバランスよく育成できるようにしましょう。

しましょう

リスニング
リーディング
スピーキング
ライティング
+意見文指導

おすすめのレストランを発表することができる (SP)

留学生に、あなたの街のおすすめのレストランを紹介しましょう

リスニング
リーディング
スピーキング
ライティング
+発表指導

Eメールを読んで理解することができる (R)

Eメールを読んで必要事項を表すまとめましょう

リスニング
リーディング
スピーキング
ライティング
+メール表現指導

内容を理解できる (R)

内容を理解できるようにしましょう

リスニング
リーディング
スピーキング
ライティング
+読解指導

②ゴールタスクとは、単元の目標が達成できたかどうかを評価するための具体的なツールです。生徒の思考・判断・表現を評価するためのカギとなるのは、目的・場面・状況の設定です。実際のコミュニケーションを意識したタスクを実施しましょう。

③単元の授業では、教科書本文を使用した4技能5領域の指導を、バランスよく行います。教科書本文は4技能5領域の育成のために活用し、単元目標に基づくゴールタスクで確認する、つまり教科書で練習して、応用力の腕試しをさせるという流れにしなければなりません。

8 家庭

☆「空間軸」と「時間軸」

高等学校家庭科の学習指導要領における教科目標から読み取れるキーワードです。個人から地域・社会へと視野を広げていくという「空間軸」の捉え方により、社会から求められる課題への対応が可能となります。

また、過去から未来という「時間軸」の捉え方で次世代を担う役割を自覚し、生涯を見通したキャリア教育にも通じる考え方が可能となります。

☆学習過程を踏まえた授業改善

生徒が家庭科の学習を学校の授業のみに終わらせるのではなく、常に課題をもって生活し、実生活へ生かすとともに、将来にわたって学び続けることができるよう、問題解決的な学習の充実に一層努める必要があります。そのためには、生徒が学習内容を自分事として捉え、課題を課題として認識し、その解決に向けて実践できるよう、日々の授業を工夫していくことが必要です。

☆指導計画の作成について

単元のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図りましょう。

家庭科の目標

学習指導要領の目標は「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す」です。

- (1)人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。（「知識及び技能」）
- (2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。（「思考力、判断力、表現力等」）
- (3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。（「学びに向かう力、人間性等」）

この目標は、家庭科で育成を目指す資質・能力を「資質・能力の三つの柱」に沿って示したものです。実生活と関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れ、これら三つの柱を相互に関連させることにより、家庭科全体の資質・能力を育成することが重要です。

家庭科における「見方・考え方」

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、

- 協力・協働、
- 健康・快適・安全、
- 生活文化の継承・創造、
- 持続可能な社会の構築 等

の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。

「見方・考え方」のそれぞれの視点は、相互に関わり合うものであり、生徒の発達の段階を踏まえるとともに、取り上げる内容や題材構成などによってどの視点を重視するのかを適切に定めることが大切です。

学習指導要領改訂のポイント

小学校から高等学校までの学びの系統性を踏まえ、内容構成は次の四つに整理されました。

- A 「家族・家庭及び福祉」
- B 「衣食住」
- C 「消費生活・環境」
- D 「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」

「生涯の生活設計」について

まとめとしてだけでなく、科目の導入として位置付け、**A～C**の内容と関連付けることで、生活課題に対応した意思決定の重要性についての理解や生涯を見通した生活設計の工夫ができるようにする。

少子化の進展に対応して

「家庭基礎」…子育て支援、乳幼児と関わるための基礎的技能
「家庭総合」…子どもの遊びと文化、子育て支援、子どもの発達に応じた適切な関わり方の工夫をする。

高齢化の進展に対応して

高齢者の尊厳と介護（認知症を含む）に関する内容の充実を図る。
「家庭基礎」…高齢者の生活支援に関する基礎的な技能
「家庭総合」…高齢者の心身の状況に応じた生活支援に関する技能

衣食住について

日本の伝統的な生活文化の継承・創造に関わる内容の充実を図る。
→和食・和服・和室を扱う
「家庭基礎」…自立した生活を営むために必要な基礎的・基本的な内容
「家庭総合」…生涯を見通したライフステージごとの生活を科学的に理解させることを重視

消費生活・環境について

成年年齢の引下げを踏まえ、契約の重要性や消費者保護の仕組みに関する内容を充実するなど、消費者被害の未然防止に資する内容の充実を図る。また、**C**の内容については、原則として、入学年次または、次の年次で取り上げること。

ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について

家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習の充実を図った。家庭科の授業の一環として、年間指導計画に位置付けなければならない。

生活の科学的な理解を深め、生活の自立に向けて主体的に活用できる技能の習得を図るために、実践的・体験的な学習活動を重視し、問題解決的な学習を充実していかなくてはなりません。

☆他教科とのつながり

家庭科の学習内容は生活全般にわたるので、他の教科と関連する内容も多くあります。他教科と連携すると「内容が深まる」、「より理解しやすくなる」と感じたこともあるのではないのでしょうか。他教科と授業内容について情報交換し、よりよい授業を考えてみましょう。

☆地域とのつながり

乳幼児施設として保育所・子育て支援センター、児童関連施設として放課後児童クラブ、高齢者施設として特別養護老人ホーム・デイサービスセンター等があります。実習を行う際は、生徒の安全はもとより、乳幼児や高齢者のプライバシーを含む相手に対する配慮や安全の確保に配慮し、生徒が自覚と責任をもって行動し、目的が効果的に達成できるよう留意しましょう。

【参考資料】

神奈川県健康医療局
「健康・未病学習教材」



くらし安全防災局くらし安全部消費生活課
「JUMP UP」等



9 情報

☆共通教科情報科の位置付け

学習指導要領解説 情報編には「共通教科情報科は、小・中・高等学校の各教科等の指導を通じて行われる情報教育の中核として位置付けられる。」と記載されています。

☆小学校段階におけるプログラミング教育の在り方について（議論の取りまとめ）（抜粋）

プログラミング教育とは、子どもたちに、コンピュータに意図した処理を行うよう指示することができるということを体験させながら、発達の段階に即して、次のような資質・能力を育成するものであると考えられる。

【知識・技能】

- ・ 小学校
身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることに気付くこと。
- ・ 中学校
社会におけるコンピュータの役割や影響を理解するとともに、簡単なプログラムを作成できるようにすること。
- ・ 高等学校
コンピュータの働きを科学的に理解するとともに、実際の問題解決にコンピュータを活用できるようにすること。

共通教科情報科の目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指します。

（１）情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。

情報と情報技術についての知識と技能、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法についての知識と技能を身に付けるようにするとともに、情報社会と人との関わりについては、情報に関する法規や制度及びマナー、個人が果たす役割や責任等について、情報と情報技術の理解と併せて身に付けるようにすることを示しています。

（２）様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、様々な事象を情報とその結び付きの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力を養うとともに、問題を発見・解決する各段階で情報と情報技術を活用する過程を振り返り改善することで、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養うことを示しています。

（３）情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

情報と情報技術を適切に活用することを通して、法規や制度及びマナーを守ろうとする態度、情報セキュリティを確保しようとする態度などの情報モラルを養い、これらを踏まえて情報と情報技術を活用することで情報社会に主体的に参画する態度を養うことを示しています。「情報Ⅰ」では、この目標の実現を目指し、「情報Ⅱ」では、参画するだけでなく、発展に寄与することも求めています。

共通教科情報科における「主体的・対話的で深い学び」

「主体的な学び」

見通しをもって試行錯誤することを通して自らの情報活用を振り返り、評価・改善して、次の問題解決に取り組むことや、生徒に達成感を味わわせ学習に取り組む意欲を高めたり、個々の興味・関心や能力・適正に応じてより進んだ課題に取り組んだりすることなどであると考えられます。

「対話的な学び」

生徒が協働して問題の発見・解決に取り組んだり、互いに評価し合ったりして、情報技術のより効果的な活用を志向し探究したり、産業の現場など実社会の人々と関わるなどして現実の問題解決に情報技術を活用することの有効性を、実感をもって理解したりすることなどであると考えられます。

「深い学び」

具体的な問題の発見・解決に取り組むことを通して、日常生活においてそうした問題の発見・解決を行っていることを認識し、その過程や方法を意識して考えるとともに、その過程における情報技術の適切かつ効果的な活用を探究していく中で「見方・考え方」を豊かで確かなものとする、それとともに、情報技術を活用し、試行錯誤して目的を達成することにより、情報や情報技術等に関する概念化された知識、問題の発見・解決に情報技術を活用する力や情報社会との適切な関わりについて考え主体的に参画しようとする態度などといった資質・能力を獲得していくことであると考えられます。

科目「情報Ⅰ」の内容のまとめ

(1) 情報社会の問題解決

科目の導入として位置付け、(2)から(4)までの内容に結び付けられるようにするとともに、情報と情報技術を用いて、生徒が情報社会の問題を主体的に発見し、明確化し、解決策を考えられるようにする。

(2) コミュニケーションと情報デザイン

情報のデジタル化や、コミュニケーションとメディアの関係を理解し、情報の構造と関係性を適切に表現したデザインについて作成、評価、改善を繰り返すことで、情報伝達やコミュニケーションにおける問題を解決できるようになる。

(3) コンピュータとプログラミング

自然現象や社会現象の問題点を発見し、コンピュータやプログラミングを活用し解決策を考えられるようにする。

(4) 情報通信ネットワークとデータの活用

情報通信ネットワークの管理、運用ができ、データベースやWeb上のテキストデータ、オープンデータ等を可視化、分析する力を育成する。

☆中学校技術・家庭科 技術分野の目標及び 内容 D 情報の技術 (抜粋)

情報活用能力を系統的に育成できるよう、プログラミングに関する学習やコンピュータの基本的な操作、発達の段階に応じた情報モラルの学習、さらに、社会科第5学年における情報化が社会や産業に与える影響についての学習も含めた小学校における学習を発展させるとともに、中学校の他教科等における情報教育及び高等学校における情報関係の科目との連携・接続に配慮する。

☆他教科等との関連

高等学校段階における情報教育の実施を、共通教科情報科だけが担うというように、極めて限定的に捉えないようにしてください。教科等の特質に応じて教科等横断的に情報活用能力を身に付けさせる教育のより一層の充実が求められています。特に、統計の指導に当たっては数学科と、情報モラルなどの指導に当たっては公民科との関連を図りましょう。また、共通教科情報科の学びによって身に付けた能力や態度を他の教科・科目等の学習において積極的に活用していくことが重要です。

☆高等学校情報科に 関する特設ページ (文部科学省)



10 農業・工業・商業・水産・看護・福祉

☆専門高校の現状

高等学校における職業教育は、農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉など職業に関する教育を行う専門高校を中心に行われています。

令和5年現在、専門高校の生徒数は、約49.7万人であり、高等学校の生徒数全体の17.1%を占めています。

専門高校は、有為な職業人を多数育成するとともに、望ましい勤労観・職業観の育成や豊かな感性や創造性を養う総合的な人間教育の場としても大きな役割を果たしています。

☆専門教科に求められるもの

「県立高校改革実施計画（全体）平成28年1月」では、「将来のスペシャリストの育成」、「将来の地域産業を担う人材の育成」、「人間性豊かな職業人の育成」という3つの人材育成の視点に基づき、生徒の多様な進路希望に対応した教育課程となるように、より一層の改善に取り組むことが求められています。

☆課程・学科等の改善

参考：「県立高校改革実施計画（全体）平成28年1月」

農業 神奈川の農業の特性をいかすとともに、6次産業化の進展への対応や先進的な農業技術の習得などを図るため、農業にかかる教育機関や企業などとの連携を一層推進します。

各教科における「見方・考え方」

農業



農業や農業関連産業に関する事象を、安定的な食料生産と環境保全及び資源活用等の視点で捉え、持続可能で創造的な農業や地域振興と関連付けること。

工業



ものづくりを、工業生産、生産工程の情報化、持続可能な社会の構築などに着目して捉え、新たな時代を切り拓く安全で安心な付加価値の高い創造的な製品や構造物などと関連付けること。

商業



企業活動に関する事象を、企業の社会的責任に着目して捉え、ビジネスの適切な展開と関連付けること。

水産



水産や海洋に関連する事象を、漁業生産や船舶運航、海洋工学、情報通信、資源増殖、水産食品の製造や流通、海洋の環境保全や活用などの視点で捉え、地域や社会の健全で持続的な発展と関連付けること。

看護



健康に関する事象を、当事者の考えや状況、疾病や障害とその治療等が生活に与える影響に着目して捉え、当事者による自己管理を目指して、適切かつ効果的な看護と関連付けること。

福祉



生活に関する事象を、当事者の考えや状況、環境の継続性に着目して捉え、人間としての尊厳の保持と自立を目指して、適切かつ効果的な社会福祉と関連付けること。

「見方・考え方」を意識して指導する

「見方・考え方」は、「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすもの」です。商業科を例にその重要性について考えてみましょう。

商業の「見方・考え方」は「**企業活動に関する事象を（中略）ビジネスの適切な展開と関連付ける**」とされ、様々な事象を「**企業側**」から捉えることが求められています。

例えば、「電子決済」について学ぶ単元で、ある生徒の授業後の振り返りの記述が次のようなものであったとします。

電子マネーのいいところや問題点が分かりました。
今使っている電子マネー以外も試しに使ってみたいです。



この生徒は「**消費者側**」として授業内容を捉えており、教科を学ぶ本質である商業の「見方・考え方」（企業側から捉える）から離れています。「何のために商業を学ぶか」が把握できていなければ、この単元の目標はもとより、教科・科目の目標の達成も難しいでしょう。

それでは、振り返りの記述がどのようなものになっていれば、生徒が商業の「見方・考え方」を働かせたと言えるのでしょうか。例えば、次のような記述が考えられます。

事業者や消費者にとってのメリット・デメリットが分かりました。私が社長だったら、どの電子マネー決済を店舗に導入するかを考えていきたいです。



生徒が教科・科目を学ぶ「本質的な意義」の部分を読み外すことがないよう、教員は各教科の「見方・考え方」を意識した学習指導を心がけていきましょう。

《 他の例 》

- ・ 共通教科「情報」と専門教科「情報代替科目」の違いは？
- ・ 共通教科「家庭」と農業科「食品製造や食品流通の分野」の違いは？
- ・ 共通教科「美術」と工業科「デザイン分野」の違いは？ など

「見方・考え方」を意識して評価する

「学びに向かう力、人間性等」も、生徒が「見方・考え方」を働かせて単元の学習にアプローチするからこそ培われます。主体的に学習に取り組む態度の評価に当たっても、生徒が「見方・考え方」を働かせられているかを意識して評価していきましょう。

【STEP1】「見方・考え方」の具体化（生徒が意識しやすいように）
商業の例：「採算性（コスト、利益等）、利害関係者（株主、経営者、顧客等）、社会情勢、CSR 等」

【STEP2】単元の学習内容について、具体化した視点で課題を捉え、より良く改善し、工夫を凝らそうとしているかを中心に評価する

〈前ページからの続き〉

工業 科学技術の進歩とともに高度化する工業技術の習得や実践的なものづくり教育を進めるため、長期間の現場実習を教育課程に位置付けるなど、企業や大学、職業技術校などとの連携を一層推進します。

商業 急速に進展する経済社会のグローバル化に対応するとともに、他の産業分野との連携、協働による生産から加工、流通、販売までの総合的で実践的な教育を進めるため、地域の企業や商工業団体、大学などとの連携を一層推進します。

水産 水産業及び海洋関連産業の担い手となる人材を育成するため、地元の漁業協同組合や企業、行政機関、さらに、大学や研究機関などとの連携を一層推進します。

看護 看護人材に求められる資質・能力が時代とともに変化する中、医療現場では、看護に関する高度な専門知識と幅広いスキルを持った人材が求められています。そのため、高校段階では、看護系大学や専門学校での高度な専門教育に対応できる基礎学力を身に付ける必要があります。

福祉 社会福祉に対する地域や行政等のニーズが高まる中で、介護福祉や手話言語などについての専門的な知識や技能を習得するなど、社会福祉にかかわる人材を育成するため、社会福祉施設をはじめ社会福祉協議会や行政機関、大学や専門学校などとの連携を一層推進します。

11 総合的な探究の時間

☆なぜ「探究」なのか

社会が急速に変化する中で、自ら課題を発見し解決する力、多様な他者と協働して解決する力などの資質・能力が求められるようになり、問題解決的な学習が発展的に繰り返される探究的な活動が重要視されるようになりました。現行の学習指導要領からは、「総合的な学習の時間」の取組の成果を活かしつつ、より探究的な活動を重視する視点から、「総合的な探究の時間」に名称が変更されました。教育課程の中核に位置付け、教科・科目等の枠を超えた横断的・総合的な学習を行うことが期待されています。

☆目標設定・評価のポイント

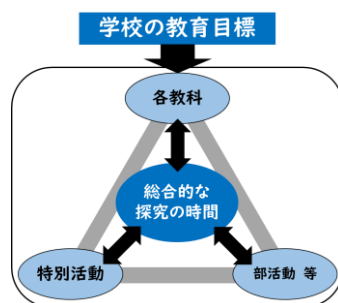
学校教育目標を踏まえた「各学校において定める目標」に基づき、育成を目指す資質・能力を三つの柱に即して具体的に示します。この目標に到達した姿を事前に評価規準として設定したうえで学習活動を評価します。

提出物の数や出席回数で評価するものではないという点においても、各教科・科目等と考え方は同じです。

総合的な探究の時間とは

総合的な探究の時間は、探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目標にしています。

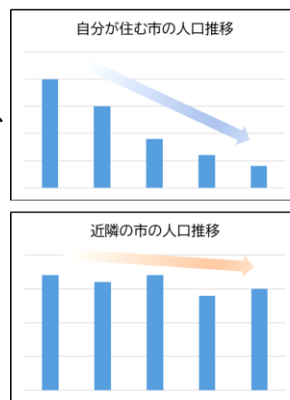
指導の計画にあたっては、上図のように、カリキュラム・マネジメントの視点を持ち、学習の効果の最大化を図りましょう。



課題発見と解決のための資質・能力を育む

総合的な探究の時間では、生徒が実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにすることが求められます。

例えば、自分が住む市と近隣の市の人口推移グラフを比較して「自分が住む市の人口減少を食い止めるには？」との問いを見出した場合、「転入者数を増やすために必要な街づくりは何か」「子育て等の行政サービスをより良くするためにはどのようなことが必要か」「自分が住む市と近隣の市の産業はどのように違うのか」等、生徒はさまざまな課題を立てることが予想されます。こうした既存の知識を統合した多角的な分析には、各教科・科目の見方・考え方を



通して培った資質・能力が土台として不可欠です。

総合的な探究の時間は、課題の発見と解決に必要な資質・能力を身に付けさせることを目標としています。そのために、各教科等と連携を図って、これまでの学びを通して得た資質・能力を横断的・総合的に活用させる機会を教員が意識的に組み込む必要があります。

探究の過程

総合的な探究の時間における学習では、問題解決的な学習が発展的に繰り返されていきます。学習過程を探究の過程とするためには、次の四つの過程が重要です。

① 課題の設定 (例) どうしたら地域を活性化できるか
生徒が実社会や実生活と自己の関わりから、自ら課題意識をもち、
問いを見だし、探究課題を設定する。

★指導のポイント

- ・生徒が自分で課題を発見する過程を重視する
- ・十分な時間をかけて価値のある適切な課題を設定する

② 情報の収集 (例) 実際に町に出てインタビューする
課題解決に必要な情報を収集する。

★指導のポイント

- ・情報収集の目的を明確にして行わせる
- ・収集した情報を適切な方法で蓄積させる
- ・各教科等で身に付けた資質・能力を発揮して情報を収集させる

③ 整理・分析 (例) 情報を整理し、因果関係を導き出す
課題解決のために必要な根拠や理由となる情報を整理・分析する。

★指導のポイント

- ・「考えるための技法」を意識させる
- ・様々な教科等での学習成果を生かすように促す
- ・課題解決や探究活動の過程を振り返らせ、自分の取組と設定した課題との整合性を点検させる

④ まとめ・表現 (例) ポスター形式でまとめ・表現する
探究課題から結論までを自分自身の考えとしてまとめ、表現する。
自らの考えや課題を振り返り、次の探究へとつなげる。

★指導のポイント

- ・相手意識や目的意識を明確にしてまとめさせたり表現させる
- ・自分自身の考えや新たな課題を自覚するように促す
- ・伝えるための具体的な方法を身に付けさせる
- ・各教科等で身に付けた表現方法を積極的に活用させる

問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく一連の学習活動で、四つの探究の過程を繰り返しながらスパイラルに学びの深化を図ります。



☆考えるための技法

思考の際に必要な情報の処理方法を次のように整理したものです。

- ▶ 順序付ける
- ▶ 比較する
- ▶ 分類する
- ▶ 関連付ける
- ▶ 多面的に見る・多角的に見る
- ▶ 理由付ける (原因や根拠を見付ける)
- ▶ 見通す (結果を予想する)
- ▶ 具体化する (個別化する、分解する)
- ▶ 抽象化する (一般化する、統合する)
- ▶ 構造化する

詳しくは「今求められる力を高める総合的な探究の時間の展開 (高等学校編)」を参照してください。

「総合的な探究の時間」関係資料

学習指導要領以外にも様々な資料やデータを活用し、より良い探究活動を実現させましょう。

○ 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 (高等学校編)

総合的な探究の時間 令和3年8月 文部科学省

○ 「今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開 (高等学校編)」

令和5年3月 文部科学省 *活動事例も多く、特にお勧めです!

○ 各教科等に関する教材や資料集等のWebサイトについて (文部科学省HP)

→ 「各教科等に……について」へのアクセスは、右の二次元コードから



5 章 学びの記録

1 本章を読んで感じたことや実践したいことをまとめましょう

2 本章の内容を意識しながら他の教員の授業を参観し、気付いた点を挙げましょう

3 他の教員からの助言のうち、本章の内容に関わる事柄をまとめましょう

4 本章の内容を授業に反映させるために改善すべき事柄を、具体的に挙げましょう